



# 女性たちが見た 山上に広がる浄土の世界

高野七口のひとつつ京大坂道の不動坂口に唯一残る女人堂。暗くなると明かりが灯される大灯笼の向こう側は、開創以来、女人禁制が守られていた高野山の境内地である。とはいえ、女性の入山だけが禁忌であったのではなく、明治39年まで魚や肉の販売から歌舞音曲をなすことや車の通行、子供が生活することさえ禁止されていた。

高野山の庶務を行う政所として創建された慈尊院。空海の母・玉依御前は、女人禁制である高野山に入山できず滞在していた慈尊院で入滅し、空海によりご廟が建立された。その母と子の関係を慕い、多くの女性たちが訪れ、高野と呼ばれるようになる。



「高野山への入口は七つあり、そこに通じる道も含めて高野七口と呼ばれてきました。それぞれに女人堂がありました。質素なものもありました。その中では不動坂口女人堂は表参道にあつたことから特に立派な造りで、山之坊という宿泊施設も併設されていきました」と案内いただいたのは総本山金剛峯寺の山口文章さん。

不動坂口女人堂は小杉という女性が蓄財して建てたのが始まりと伝えられ、また女人堂前に立つ立派な地蔵尊は、お竹という女性が建てたといわれている。険しい道を登り、境内への参拝が叶わなかった女性たち。それでも、少しの時間さえも弘法大師空海の近くにいたいという女性達の想いは、現在もお大師信仰に継承されている。

## 日本遺産 ● 女人高野



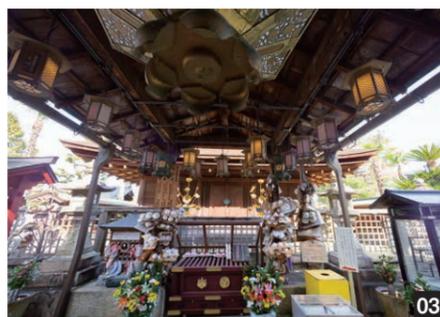
不動坂口女人堂前に建つお竹地蔵。は江戸時代、横山竹(よこやまたけ)という女性が30年蓄えたお金で建てられたといわれている。高野山上の最大級の銅製仏像。



女人高野と呼ばれる慈尊院の乳房型絵馬。



女人堂 住所/伊都郡高野町高野山709



慈尊院 住所/伊都郡九度山町慈尊院832

01> 不動坂口の巨大な石灯笼が灯る。女性達の山内への憧れが哀愁となって感じられるひととき。02> 大門近くの女人道に重なるように建てられた鳥居。03> 今も女性達の参拝が絶えない九度山町の慈尊院。月に九度、空海が母に会いにきたことから九度山と呼ばれるようになったと当院に伝わる。04> 不動坂口女人堂。左端に建つのが小杉明神社(こすぎみょうじんしゃ)。女人堂を建て参詣で訪れた女性を接待していた小杉さんが祀られている。

高野山は、神秘的な力と女性の強い信仰心に満ちている。

### Special Interview

【総本山金剛峯寺宗務総長公室長 ● 山口文章<sup>やまぐちぶんしょう</sup>】

真言密教とは「人々に幸せを感じるための方法を教える。または「体感する。宗教です。ですからその場所から得られるパワーは重要で、空海は高野山から感じる神聖で神秘的な力をお借りしたいと思ったのでしょうか。真言密教とは別に弘法大師空海を慕う「お大師信仰」というものがあります。江戸時代になると平和になり、女性の旅も安全になりました。信仰心のあつた女性達はお山に登り、女人堂で一夜を過ごした後、女人道から山内を遥拝しました。そして高野山の旅から戻った女性達は「高野山の山上で浄土(天国)を見た」と感激を口にしたに違いありません。それがまた神秘性を高め、お大師信仰をさらに広げた要因のひとつであったことでしょう。今は高野山にも女性の僧侶や高野山大学で学ぶ女性も多くなります。女人道を歩くと今も女性達が祈りを捧げたお地藏様などが所々に残されています。それは、女性達の強い信仰心の証なのです。